

SPSS によるアンケート分析 正誤表

頁	行	誤	正
39	表 3.6	交際相手する異性は	交際する異性は
46	下から 8	カテゴリ統合、値の反転、ダミーコード化、量的変数化は、いずれも各変数の値に別の値を割り当てるリコードの作業です。	カテゴリ統合、値の反転、ダミーコード化、量的変数化は、いずれも各変数の値に別の値を割り当てるリコードの作業です。ここでは、値の反転を例にとって説明します。
46	下から 6	(見出し) カテゴリ統合	(見出し) 値の反転
46	下から 3	3-3-1 項の最後で作成した変換テーブル	3-2-5 項の②で作成した変換テーブル
48	1	(見出し) 値の反転・ダミーコード化・量的データ化	(見出し) カテゴリ統合・ダミーコード化・量的データ化
48	2	カテゴリ統合の場合とほぼ同じ操作です。	値の反転の場合とほぼ同じ操作です。
48	3	3-3-2 項で作った変換テーブル	3-2-5 項の①で作成した変換テーブル
48	囲みの中 2	両親と同居	同居両親
48	囲みの中	条件式 : (parents=1) (parents=2)	条件式 : (parents=1) (parents=2) のとき数式 : 1 条件式 : (parents=3) のとき数式 : 0
49	3	② 必要な設定を終えたら OK	② 必要な設定を終えたら OK ③ 条件式と数式を適宜変えながら、①と②の操作をくり返す。
51	キャプチャ	(sex=1) & (q7=1)	(削除)
53	下から 9	男性であれば 2	男性であれば 0
53	下から 7	「思わない」	「あまりそう思わない」
53	下から 4	問 9	問 4
90	下から 13	$(x \pm 1.96SE)$	$(\bar{x} \pm 1.96SE)$
104	側注 (上)	男性・女性の「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」において絶対値が 1.96 を超えていることから、これらのセルで観測度数と期待度数の残差が 5%水準で有意であることを示しています。	20 代後半の「いずれ結婚したい」「結婚したいとは思わない」、30 代後半の「いずれ結婚したい」「結婚したいとは思わない」において絶対値が 1.96 を超えていることから、これらのセルで観測度数と期待度数の残差が 5%水準で有意であることを示しています。

104	側注（下）	2×4 表であったので自由度は $(2 - 1) \times (4 - 1)$ で 3 となっています。帰無仮説が正しいとき、この χ^2 統計量より大きい値の出現する確率（ p 値）が.003 であるので帰無仮説を棄却し、クロス表の 2 変数の間に有意な関連があることを示しています。	3×3 表であったので自由度は $(3 - 1) \times (3 - 1)$ で 4 となっています。帰無仮説が正しいとき、この χ^2 統計量より大きい値の出現する確率（ p 値）が 1%未満であるので帰無仮説を棄却し、クロス表の 2 変数の間に有意な関連があることを示しています。
142	囲み 1 の中	$p = .090, r = .44$	$p = .064, r = .08$
171	下から 2	単回帰分析でいえば	（削除）
237	章タイトル	複数の単一回答をまとめる	複数の単一回答をまとめる①
240	下から 11	全測定変数	全観測変数
257	章タイトル	複数の単一回答をまとめる	複数の単一回答をまとめる②